

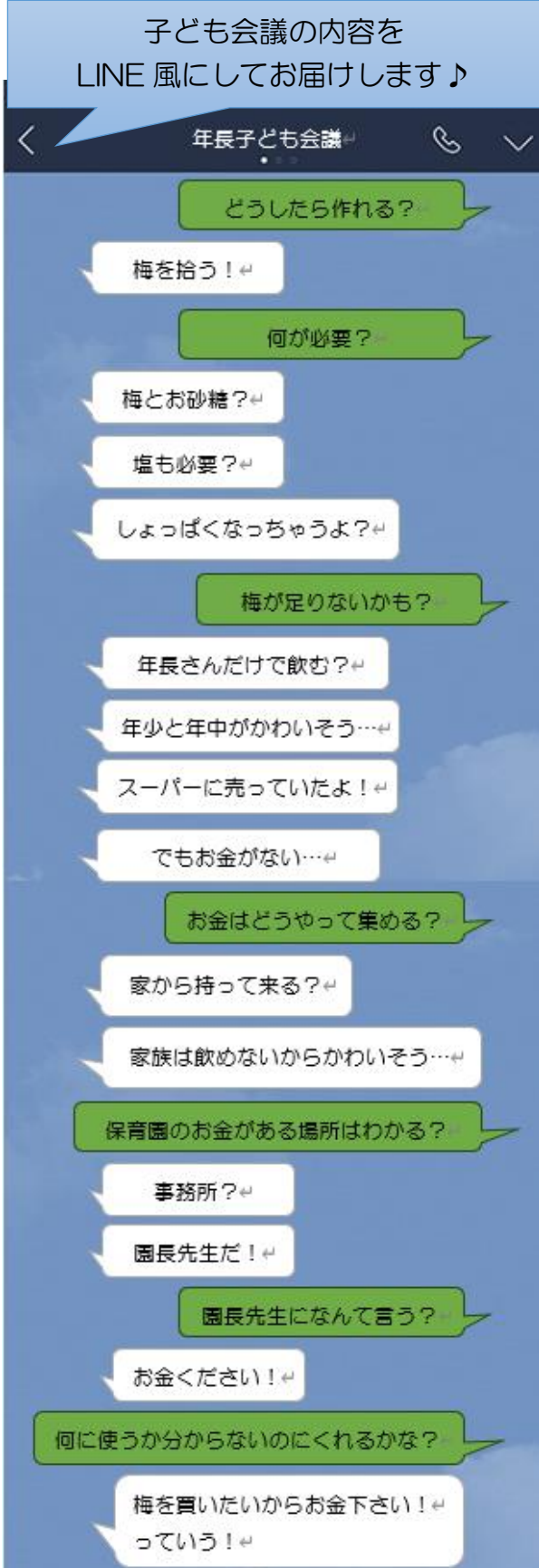
子ども会議

～子どもが主体的に活動する保育を目指して～

今注目されている“主体性を育む保育”という言葉をご存じでしょうか？

子ども達が自ら、何をすべきかを考えて行動できるような保育を展開していくことです。

そんな活動を今回は横浜りとるぱんぷきんずの年長児と実際におこなったので紹介します。



ある日散歩から帰ってくると駐輪場に梅の実が落ちていて、ことに子ども気が付き…

梅ジュース飲みたい!

この一言から年長会議を開くことに決めました!

主体性とは…

主体性とは「何をすべきか決められていないこと」に対し、自分の意思・判断により自ら責任を持って行動する態度や性質のことを指します。例えば、「先生に言われたから活動をやる。」のではなく、自分で活動を選んだりすることです。園生活の中で、室内活動や選択保育もその一部になっており、カモミールやメリッサなど乳児でも自分で決めて活動をおこなえるように保育を計画しています。

主体性保育の大切さ…

主体性が身に付くと、さまざまな事にチャレンジしたり、問題を解決しようと取り組んだりする力を伸ばすことにもなります。主体性をベースにしたこのような能力は、目まぐるしく変化する社会を生きていくために欠かせません。主体性は子どもの「一歩前に進む力」となり、将来を支えてくれるでしょう。

会議をやってみて…

子ども会議をする中で色々な考えがある事に子どもも職員も気付くことが出来ました。また、会議で考えがまとまらない子や発言することが難しい子がいると、子ども同士で「〇〇ちゃんはどう思う?」や「こっちとこっちどっちがいい?」と聞くなど、各々で工夫して活動を考えることが出来ました。今後も子どもの発言や気付きに寄り添い、子ども達と一緒に考え、体験し、発見出来るような関わりを目指していきます。(ひな子)